

# 硫黄島戦没者遺骨収集

## 派遣団に参加して

長崎偕行社副会長  
山口 豊治 陸自72

硫黄島において日本のために尊い命を捧げられた2万1900名（陸軍1万4000名、海軍7900名）のうち未だ半数以上（令和2年3月現在1万1400余名）のご遺骨が未帰還であることを残念に思っています。3年程前から現地での遺骨収集活動に参加する機会があることを知り、（公益財団法人）大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会にお願いをいたしましたところ、（一般社団法人）日本戦没者遺骨収集推進協会に推薦して頂き、令和2年1月20日から2月14日の間、戦没者遺骨収集派遣要員として参加させて頂き、遺骨の収集活動と現地での拝礼を行うことが出来ました。

令和2年1月30日午前、航空自衛隊入間基地から航空自衛隊輸送機C-130により海上自衛隊硫黄島航空基地に向かいました。2時間40分後に機内から初めて硫黄島を見ました。輸送機は外気が入る構造のため着陸直前には硫黄のにおいがかすかに機内に充満してきました。いよいよ英霊のご帰還をお手伝いができるという気持ちがあ

がってきました。

島に到着して慰霊塔に拝礼後翌日から収集活動が始まりました。マイクロバスで収集現場に向かう途中、諸所に当時の部隊配置を示す石碑が数々ありました。収集現場の壕周辺には無数の各種口径銃弾の痕跡や火炎放射器等によると思われる、赤茶けたり黒くすけた岩や土を目にしたとき、いかに創意工夫して戦闘をしようとも、圧倒的な戦力差を克服するには限界があったことは明らかだと感じました。

硫黄島の地形は南北8km東西に4km、東海岸中央部から北部にかけての崖地域と硫黄島を見渡せる南部の標高170m摺鉢山を除きほぼ平坦です。その硫黄島では75年前、名将栗林中将の綿密な作戦計画のもと、圧倒的に優勢な米軍との戦闘に備え約半年間に硫黄方の噴き出る箇所もある地下に全長約20kmの壕を張り巡らせ着々と戦闘準備を行っていました。

今回の収集団は2月13日に硫黄島を離れました。その75年前の6日後にあたる昭和20年2月19日、突如硫黄島南部東海岸には昼夜にわたり3日間の上陸前の圧倒的な艦載機と艦艇による砲撃が実施され、その後米海兵隊3個師団が上陸を開始しました。当初米軍は日本軍の神出鬼没の攻撃により大混乱に陥り米軍同士の間にも発生したよ

うです。米軍は火炎放射器やガソリン

等で徹底的に地域を焼野原状態にしたのち攻撃しました。日本軍は地上には身を隠すところがなくとも、周到に準備した壕を活用し、3月17日までの26日間、物量的に圧倒的に優勢な米軍に対し熾烈な戦闘を強いました。戦闘に不可欠な兵站（特に弾薬・水・食料等の補給）が劣悪であり、その後の戦力の増強や補給が断たれていたにもかかわらず米軍に対して果敢に戦い、米軍の日本侵攻を遅らせたのかと思うところ

み上げて来るものがありました。栗林中将は「万歳突撃」を固く戒められ、栗林中将以下将兵はひたすら日本のために死力を尽くされました。最終的には、日本軍は戦死2万1900名、米軍は戦死約6800余名、傷病者2万1880余名でした。今回の遺骨収集派遣団に参加されていた方から見せていただいた「硫黄島記録映像」によると、米軍は壕に火炎放射器やガソリンを投入し火をつけていました。米兵の中には戦闘で負傷していてもかかわらず熾烈な戦闘によりパニック障害に陥った者の様子が映っていました。

この硫黄島における戦いや沖縄の戦いの結果、米国の日本に対する占領政策は慎重となり、その後日本の発展の礎になったと思われる。

大東亜戦争において、各地域での戦闘でひたすら日本のためにご尽力されました陸海軍の英霊に対し感謝申し上げます。

今回は年度最後の収集にあたり、ご遺骨の帰還時は、硫黄島における海上自衛隊基地司令および儀仗隊による見送り。入間基地では、入間基地司令及び儀仗隊による出迎えと隊員830名によると列が行われ、千鳥ヶ淵戦没者墓苑での厚生労働省政務官をはじめとするご遺族及び関係諸団体による厳かな出迎えと安置の儀式が行われ、英霊も安堵されたのではないかと存じます。次は、収集活動に関する今回の参考事項です。

収集団員の健康要件は、医者による健康診断により支障がないと診断されることが必要です。今回の収集派遣団員（36名）の構成は、60歳未満31%、高齢者（60〜75歳未満）50%、後期高齢者（75歳以上）19%でした。  
※ 収集活動間、硫黄島勤務の海上自衛官及び航空自衛官が代休等を取り、多い時は10名位支援していただけたことが非常に良かったです。  
収集作業は基本午前中3時間、午後2時間で計画的にまた状況に応じて休憩を取りながら実施されました。私は71歳ですが、作業はあまりきついものではありませんでした。同行者の偕行

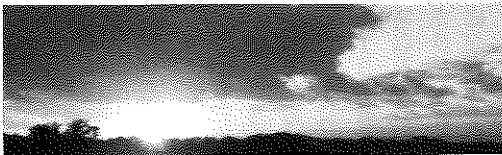
社藤野氏（47歳）は、民間企業に勤務中ながら長期休暇を取得し参加されました。パワフルで作業効率是非常にあげられました。皆様もご都合がよろしければ是非収集活動にご参加くださると思います。

実作業の1月31日～2月11日間の作業環境は、降雨はほとんどなく、作業現場温度…18～30℃位、壕内温度…22度～42℃位でした。

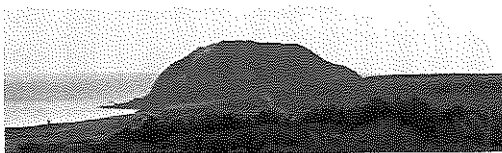
硫黄島滞在中の写真撮影について、ご遺骨収集現場及び自衛隊基地施設（宿泊棟も含む）は禁止です。遺骨収集作業中の撮影は、（一社）戦没者遺骨収集推進協会または厚生労働省職員が実施します。ただし、島内巡拝時に

おける撮影は、禁止されている自衛隊基地施設（宿泊棟も含む）以外は、撮影可能でした。

硫黄島における通信手段は、使用できる回線が少ないので、インターネットへの接続はなるべく控えることとされてきました。携帯電話による電話や文字ベースのメールの送受信は全く支障ありませんでした。



日の出



摺鉢山